

# 洋光台エリア会議について ～ これまでの経緯と成果

- ・洋光台まちづくり協議会、神奈川県、横浜市・磯子区、UR、有識者3名により、平成24年5月にスタート、計14回開催
- ・まちづくりの主たる担い手が同じテーブルにつき、まちの情報共有や意見交換、有識者の方々からの助言等を踏まえ、まちづくりの方向づけを行った。



## ●メンバー

有識者：小林重敬教授（現・森記念財団理事長） 大江守之教授（現・慶応大学名誉教授）  
中村文彦教授（現・横浜国立大学副学長）

洋光台まちづくり協議会  
神奈川県 横浜市 磯子区 UR 都市機構

## ●主な取り組み

- ・「ルネッサンス IN 洋光台」の名のもと、地域活動への参加・協働をはじめ、様々な取り組みの展開により、まちの活性化やより多くの地域ニーズ把握、まちづくりの担い手発掘につなげた。

### ○ワークショップ：

より多くの地域の声・ニーズの把握、中央団地広場改修へのフィードバック、人材発掘等

### ○CCラボの設置・運営：

まちを元気にする活動の拠点、駅前の活性化、地域活動の見える化、活動サポートと活性化、人材発掘

### ○地域連携イベント：

Happy ハロウィン in 洋光台・環境絵日記展・ゴジライベント等を地域と共同開催、活性化と多世代交流に寄与

### ○まちづくりアンケート：

洋光台地区約12,000戸に全戸配布アンケート、まちの評価や意見を幅広く把握し、事業の効果検証へつなげる

### ○次世代スタイルワーキング：

民間企業との連携のもと、健康・環境・防災について新機軸となる取り組みを検討

### ○交通：

洋光台の交通アンケート、駅前交通調査、カーシェア、サイクルシェア実証実験など（横国大都市と交通研究室との共同調査）



第1回全体ワークショップ (H24.11/72人参加)

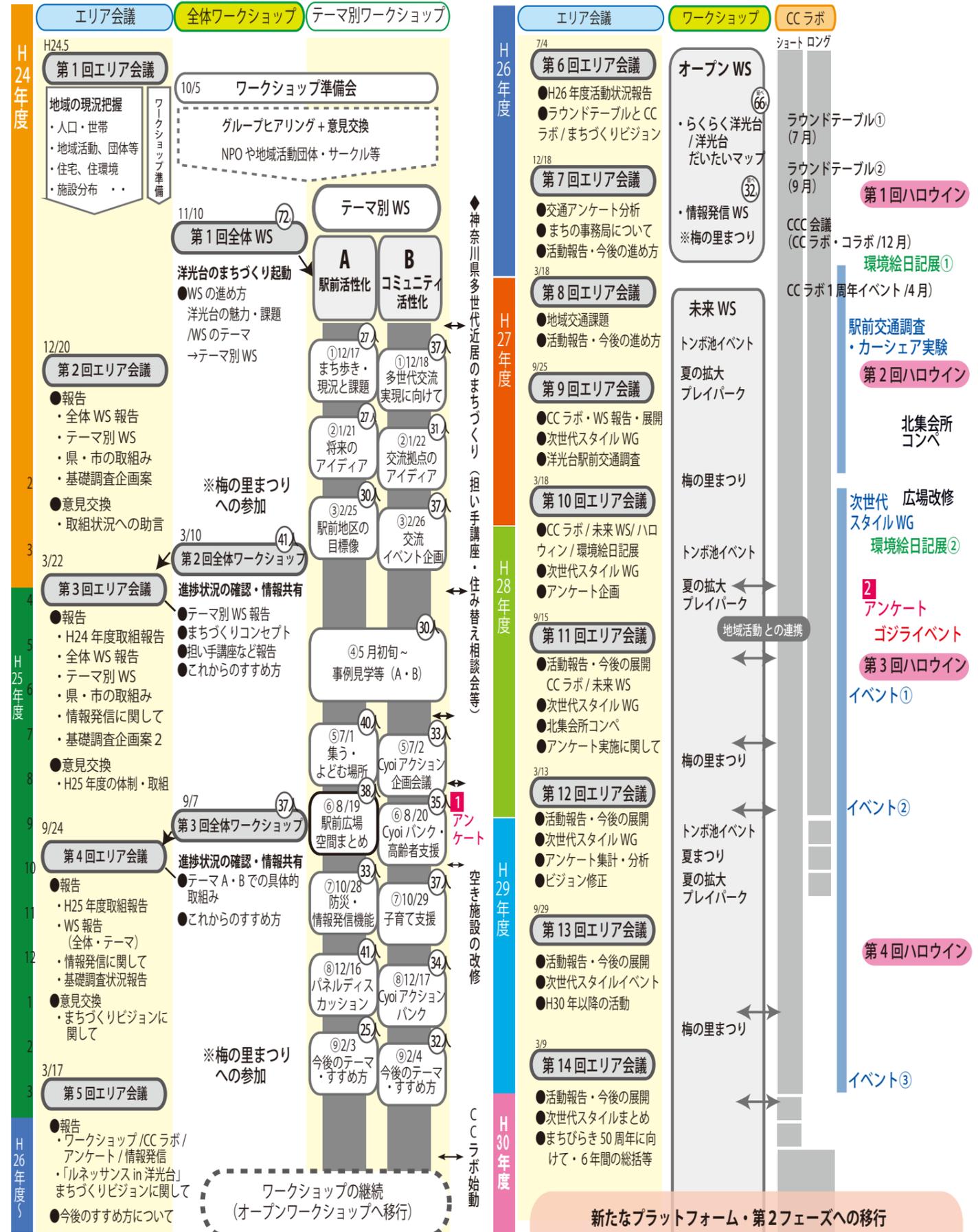


CCラボ活動（認知症カフェの様子）



地域連携イベント (Happy ハロウィン in 洋光台 2016)

## 洋光台エリア会議年表



新たなプラットフォーム・第2フェーズへの移行

# 洋光台・まちの課題について（エリア会議・アンケートからのまとめ）

※末尾〇数字=該当するエリア会議開催回

## エリア会議での発言から

### 賑わいづくり・活性化

- ・**広場の活用**：店舗と広場の一体的・連続的な利用で魅力向上 / 広場等の利用を収益化、他の活動財源に (②・③・⑥)
- ・**賑わい**：コミュニティ活動の賑わいが「洋光台らしい賑わい」の鍵 / 港南台とは違う賑わい / CC ラボ活動で賑わい演出 / 広場と CC ラボの連携を / (⑤・⑥)
- ・**若年層の呼び込み**：学生に住んでもらう試みを (③) / 南陵高校や横国・慶応の研究室等との関係強化で若い世代の担い手を (⑦・⑧)
- ・**広報・PR**：イベント情報が届かない / 看板など人目につく PR を / 広報はまちの事務局の重要業務 / 広報スキルをもった人材を / 地域メディアとの連携を / 紙ベース・口コミの情報発信を / ラウンドテーブルなどの成果発信 / 夏祭りなど既往活動の発信 (⑦・⑪・⑫・⑭)

### 推進体制づくり

- ・**まちの事務局**：実際に動かす想定で具体的検討を / 財源確保が最大の課題 / 事業内容に特徴を / 事業体か、協議体か / 行政の支援が不可欠 / 2 階スペースを活用 / 問題解決のアイデアをストック (⑦・⑨・⑬)
- ・**プラットフォーム**：地域活動のプレイヤーを一つのプラットフォームに / 長い

スタンスで取り組みが必要 / プラットフォームを動かす仕組みを / ゆるやかなネットワークが活動を支える / サポーター層強化を / 地域主体をベースに、行政の運営参加で公共性を / 団地マネジメント主体として UR の参画 (⑫・⑬・⑭)

**財源確保**：新たなファンディングスキーム検討を / 複数主体のコラボによる地域ファンド / 寄付金付き自販機など / 有料イベント開催も / 企業の駅前広場・公園利用で収益を (⑨・⑩)

### 交通・モビリティ

- ・**全般的に**：駅前活性化には、エリア全体の交通のあり方を考える必要 (②)
- ・**自転車道**：自転車が見直される時代「自転車レーン復活」も→車との競合等から地域として廃止を要望した経緯 / 歩道を爆走する自転車、段差解消が課題 (④)
- ・**ミニバス**：駅に遠いエリアの利便性向上が必要、ミニバス等の検討を / 地域タクシーや NPO でのミニバス運営の事例あり (⑤)
- ・**カーシェアなど**：車も自転車も乗れない高齢者の移動支援も / 駅前で自転車シェア実験を / 地域運営とビジネスベースのほどよい連携を (⑦)
- ・**駅前地区の課題**：駅前広場の送迎スペース不足・駐車場不足・駐輪場不足 (②) 全体で一体的なりノーションを (⑧)

- ・**駐車場**：駐車場増設は、カーシェア等新たな仕組みと絡めて (⑤)
- ・**駐輪場**：台数不足の一方で、占有面積が過大 / 効果検証し、駐輪場の立体化を / 使いやすい買い物用駐輪場を
- ・**送迎車両**：渋滞・進行妨害 / 洋光台の住みやすさに関わる重要課題 (⑧)

### まちづくりの進め方・方向性

- ・**段階的まちづくり**：一気に出来て終わりではなく、長期間で段階的に変わっていく仕掛けを (③)
- ・**雇用創出など**：地域に「働く」「遊ぶ」「売る」ができる仕組みと空間を / 機能の複合や新たな財源確保（市民からの会費や寄付など）(④)
- ・**企業連携**：モニタリングの場として CC ラボの積極活用を (⑥) 新たなニーズ・シーズ発掘を提 / テーマによって複数企業の連携を / 同じ志の地域活動に資金援助など (⑧・⑨) / 郊外住宅地における「環境」「健康」「防災」の新たな展開を / 「歩くこと」がキーになる (⑩)
- ・**支援系活動**：高齢者・子育て支援など地道な支援系活動の見える化を / 必要なところへ届く仕組み作りを (⑪・⑫・⑬)
- ・**防災**：戸建の高齢者支援を / 団地に防災拠点を / 地域ごとの連携 (⑪)

## まちづくりアンケートから読み取るまちの課題

「6つの指標」を、100点満点で点数化

### 安全・安心環境

74点

防災・防犯、交通環境など

### 街並み・自然環境

69点

公園や街並み、まちの雰囲気、自然など

### 子育て環境

55点

子育て環境、住宅、コミュニティなど

### コミュニティ環境

52点

地域活動、コミュニティ拠点、近隣関係など

### 高齢者の環境

49点

医療・介護サービス、見守り、バリアフリーなど

### 賑わい・利便性

42点

駅前の賑わい・買い物利便性・交通利便性

## 具体的項目の評価 ～50点以下の項目

バリアフリー整備が進み、高齢者にも移動しやすい	40.30
自転車で移動しやすい	42.98
買い物に便利で、商業・娯楽施設がたくさんある	43.87
日常的な見守り・声かけなど、地域で助け合う機会が多い	44.02
子育て層に配慮したスーパーや飲食店がある	44.31
様々な地域活動における人材が豊富	44.95
子育て仲間が集える交流の場や機会が多い	45.49
駅を中心にした賑わいがある	46.25
サークル活動やサロンなど、集える場所や拠点多い	46.79
子育て家族向けの住宅が多い	47.99
介護保険施設や、居宅介護支援などのサービスが充実	49.44

### 自由記載での頻出項目

- 1 バス便が少ない・ルートが不便・バス停の間隔
- 2 坂道、道路の凹凸や段差が多い
- 3 人間関係・コミュニケーションが希薄
- 4 若い世代・子育て層を呼び込む工夫を
- 5 賑やかさが少ない/寂れている/もっと賑わいを
- 6 カフェ(くつろぎ、集える・外で時間をすごせる場所)
- 7 夜道が暗い、怖い
- 8 生活必需品以外の店舗・魅力的な店舗
- 9 駅広の改善・総合的再整備を
- 10 落ち着き・適度な賑わいを保って
- 32 増発を/循環・コミュニティバス/横浜までの代替
- 31 車道・歩道の段差/路面状態が悪い/階段
- 28 表札・挨拶なし/団地の縦長屋のような見守りを
- 28 子育て・若年層に魅力を/ファミリー向け住宅
- 27 昔は賑やか/休日寂しい/空き店舗対策を
- 25 人をつれてこれる/ゆっくりできる/営業時間長く
- 24 街灯が少ない/人気がない/全体的に暗く寂しい
- 23 衣料品・雑貨店/子供用衣料・用品/TSUTAYA
- 21 動線錯綜・混雑・スペース配分・駅ビル化等
- 19 港南台化NG/落ち着きや静かな環境をウリに

## まちの課題見取り図（試案）

